

山形県川西町

K-863

下小松古墳群小森山支群

## 第65号前方後円墳調査報告書



第65号墳復元整備

1989

川西町教育委員会

## 序

本報告書は、川西町教育委員会が、昭和63年度に発掘調査を実施した川西町下小松古墳群小森山支群第65号前方後円墳の発掘調査と整備作業をまとめたものであります。

下小松墳丘群の発掘調査は、昭和60年度より行っており、これまで発掘調査により下小松墳丘群は、5支群に分かれています。その中で、小森山支群・鷹待場支群・薬師沢支群の3支群は、発掘調査により古墳であることが確認され、現在この3支群を下小松古墳群と称しております。

年代は、4世紀末～6世紀末に造られたことが判明し、現在百数十基の古墳があるものと推察されるに至っており、古墳の形状は、前方後円墳・方墳・円墳と様々あり、まさに身近に古墳の学習を実物を通して活用できるものであります。

発掘調査を行い、過去の事実を明らかにすることは、置賜の古代史を正しく解明していくことであり、極めて意義深いものであります。

私達先人の足跡を探求し、彼らの残した貴重な文化遺産を保護、後世に継承していく地道な作業は、行政のみで行えるものではなく、町民一人一人の理解と協力なくしては成し得ないものであります。

今後も文化財保護への深いご理解とご協力をお願いするとともに、調査を御指導下さいました大塚初重先生をはじめ県文化課・関係機関の方々に厚く御礼を申し上げます。

平成元年3月

川西町教育委員会

教育長 金子兵司

## 目 次

序

目次

調査要項・例言

※ 本 文

I 遺跡の概要 .....	1
II 調査の概要 .....	2
III 調査の成果 .....	3
IV まとめ .....	5

1. 形 態

2. 燕造年代

3. 墳丘の復元整備

※ 插 図

第1図 調査位置図 .....	1
第2図 出土土器実測図・周濠土層断面図 .....	4
第3図 下小松古墳群第65前方後円墳実測図 .....	6～7

※ 写真図版

図版1 後円部周濠プラン確認状況	
前方部コーナー周濠プラン確認状況	
後円部周濠内遺物出土状況	
図版2 周濠 AA' 区土層断面	
周濠 BB' 区土層断面	
周濠 CC' 区土層断面	

## 調査要項

- |         |   |
|---------|---|
| 1 遺跡名   | 下小松古墳群・小森山支群第65号前方後円墳                                 |
| 2 所在地   | 山形県東置賜郡川西町大字下小松字舞台山1914-11                            |
| 3 調査期間  | 昭和63年6月17日～11月10日                                     |
| 4 調査主体  | 川西町教育委員会  |
| 5 調査総括  | 本田 富（社会教育課長）  |
| 6 調査主任  | 藤田宥宣（文化財専門員）  |
| 7 特別調査員 | 柏倉亮吉（県考古学会会長）<br>大塚初重（明治大学教授）<br>加藤 稔（県考古学会副会長）       |
| 8 調査協力  | 県教育庁文化課・川西町文化財保護協会・大道工務店                              |
| 9 調査参加者 | 藤倉徳夫・高橋啓一・鈴木仙助・草刈広一・伊藤成美・高橋宏平<br>塙田健一・黒沢一利・西山龍法・平田よしあ |
| 10 調査指導 | 県教育庁文化課   |
| 11 用地協力 | 横山武幸・福牡丹酒造株式会社  |
| 12 事務局  | 小方信一（社会教育課長補佐・文化遺跡係長）                                 |

## 例　　言

1. 本書は、川西町教育委員会が昭和63年度に発掘調査及び整備復元を実施した小森山支群第65号前方後円墳の調査報告書である。
2. 掛図はそれぞれスケールを示した。
3. 本報告書の執筆は藤田が行った。
4. 土色は、「標準土色帖」農林省農水産技術会議事務局監修を活用した。
5. 本調査にあたっては、県教育庁文化課・町文化財保護協会・大道工務店をはじめ、用地協力者並びに関係機関のご協力を賜りましたことを記して感謝申し上げます。



第1図 調査地位置図

## I 遺跡の概要

下小松古墳群は、山形県東置賜郡川西町大字下小松字大堤沢・舞台山・薬師沢に所在し、米沢盆地北西の川西町と飯豊町との境をなす、ならかな下小松丘陵に築かれたものである。丘陵の土質は、新第三紀中原層である。

丘陵は、JR米坂線の犬川駅西方1kmで南北にのびており、近くを国道287号線が通っている。標高は、220~280mで、古墳は、南側、東側斜面及び尾根に築造されている。周囲の平野部には、平安期の置賜郡衙跡と推定される道伝遺跡をはじめ古墳時代後期から平安時代にかけての遺跡が確認されている。丘陵には、かねてから、200~300基におよぶ墳丘があるとされ、中世期の塚との見方をされたこともある。昭和58年に遺跡詳細分布調査を行ったが、このとき新たに前方後円形の墳丘が15基発見されている。これらの墳丘の性格や築造年代等を把握するため、昭和60年から3ヶ月にわたり緊急発掘調査を行った。その結果下小松山の小森山支群、鷹狩場支群、薬師沢支群の3支群は、4~7世紀に築造された古墳であることが判明している。

今年度は、昭和60年度に調査を行った小森山支群第64号前方後円墳の東側に隣接する第65号前方後円墳を対象とした。調査の目的は、墳丘一部復元と整備であり、それに伴い規模、築造年代等の資料を収集するものである。

## II 調査の概要

今年度実施した小森山支群第65号前方後円墳の発掘調査は、墳丘を実測し、その後周濠の発掘調査を行い、周濠の覆土を利用して墳丘を整え、古墳の保存を重点に計画したものである。

この小森山支群は、過去（昭和58年・昭和60年）の各調査により円墳36基・方墳24基・前方後円墳15基が確認できたところで、昭和60年に発掘調査を行い6世紀の古墳として確認した第61号前方後円墳のあるところである。今回の調査対象とした第65号前方後円墳は、この第61号前方後円墳の東側約8mにある古墳である。

調査は墳丘の復元を第一と考え主体部等の確認はおこなわず墳丘の実測と周濠の調査を行ったにすぎない。実測より墳丘の復元・芝草の移植までの調査の経過は下記のとおりである。

7月4日	9月1日～9月6日
発掘機材搬入 作業通路の雑木伐採	周濠掘り下げ
7月5日～7月13日	9月7日～9月12日
墳丘雑木伐採 墳丘面整理	墳丘土盛整備 RP4検出（9/8）
7月14日～7月19日	10月24日
第65号前方後円墳実測図作成	墳丘整備復元
周濠掘り下げ RP1検出（7/19）	
7月20日	10月26日～10月31日
明治大学大塚教授調査指導	芝移植 張り付け作業
周濠プラン確認 RP2検出	
7月26日～8月24日	11月1日
小森山支群立木伐採	芝移植作業終了
周濠掘り下げ RP3・4 検出（7/26）	11月10日
8月25日～8月31日	調査機材撤収
立木伐採 調査杭打ち	

### III 調査の成果

調査は、古墳の実測を行った後、周濠を完掘しその覆土を復元のため墳丘上に乗せ墳形を整えるものである。

#### 1. 古墳の大きさ

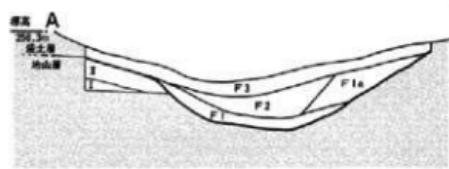
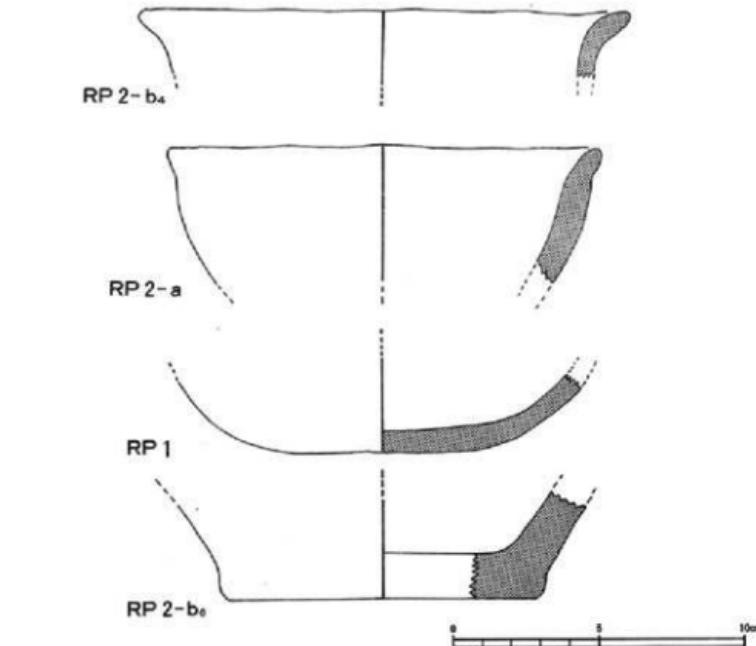
古墳の表面の落ち葉及び腐食土を取り除き実測を行った結果、主軸は（W-10-N）西で北に10度と僅かに北に振れるが、丘陵の尾根筋に沿って造られている。大きさは、周濠最深部より主軸長22.3m・前方部長8.5m・前方部先端最大幅8.8m・くびれ部最小幅6.9m・後円部幅14.5m・後円部高さ南側周濠最深部より2.1m・前方部高さ西側周濠最深部より1.2mの大きさで前方部が後円部より8cm高い造りである。古墳の盛土の高さは、後円部の周濠調査区土層断面より見て、約1.7m程盛土をしている。後円部の中央には、主軸線に沿って幅1.2m長さ3.5mの大きさで落ち込みプランが確認された。この部分が主体部（埋葬部）と推察でき、落ち込みの深さは、10~15cmである。

#### 2. 周濠調査区

周濠の確認は、前方後円墳の前方部より後円部向かって右側を調査した。下小松古墳群の大部分の墳丘は、南西側が崩れており保存整備等の考えから周濠の右側半分を完掘したものであり、左側は発掘調査を行わず原形を壊さない形で保存した。周濠プラン確認は、表土層より約25cm掘り下げ面整理を行ったところで確認され、周濠は墳體全体に掘り巡らされている。周濠の掘り方断面は、前方部と後円部では異なっており、前方部は緩やかなU字状を成し、後円部はV字状を成す。土層断面は、第2図の通りであり、地山直上より摩滅した土師器片が約80点検出された。しかし、器形を完全に推察できるものは出土していない。

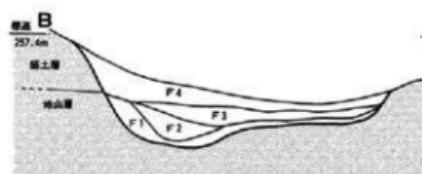
#### 3. 出土遺物

周濠調査区より摩滅の著しい土師器片が検出された。その中でRP1は、前方部周濠地山層直上より出土したもので、壇形土器の底部と推測できるものである。土師器片断面の厚さは、8mmであり、外面は、刷毛目痕等確認できない。RP2-bは、後円部周濠より出土したもので、壇と推察している。口縁部は「く」の字に外反し単純口縁で、体部外面は、刷毛目調整である。底部は平底で底径推定10~11cmとなる。RP2-aは、鉢形土器と推察している。口縁部が少し外反するもので、口縁径15~18cmである。内外面は、範調整と推察でき、器高及び底部は不明である。



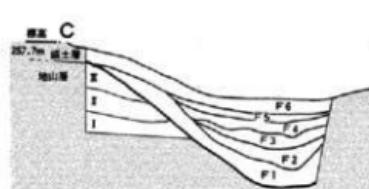
#### A A'区断面土色

- I 7.SYR 6/8 橙色粘質土 密度が高い
- II 7.SYR 6/8 " " 密度が低い
- F1 7.SYR 5/6 明褐色粘質土炭化粒あり
- F1a 7.SYR 5/6 明褐色粘質土
- F2 7.SYR 5/6 明褐色粘質土
- F3 7.SYR 4/3 橙色粘質土



#### B B'区断面土色

- F1 7.SYR 5/6 明褐色粘質土炭化粒あり
- F2 7.SYR 5/6 明褐色粘質土 "
- F3 7.SYR 3/4 橙褐色粘質土炭化粒多量混入
- F4 7.SYR 5/6 明褐色粘質土



#### C C'区断面土色

- I 7.SYR 6/8 橙色粘質土
- II 7.SYR 5/6 明褐色粘質土
- III 7.SYR 6/6 橙色粘質土
- F1 7.SYR 4/6 橙色粘質土炭化粒あり
- F2 7.SYR 4/6 橙色粘質土炭化粒多量混入
- F3 7.SYR 4/6 橙色粘質土
- F4 7.SYR 4/4 橙色粘質土
- F5 7.SYR 5/6 明褐色粘質土
- F6 7.SYR 5/6 "

第2図 出土土器実測図・周辺土質層断面図

## IV まとめ

### 1. 形態

第65号墳は、主軸長23.3m・後円径14.5m・前方部先端最大幅8.8m・後円部高2.1m・前方部高1.2m（高さは周濠調査区底部より計測したもの）の小型の前方後円墳である。平面形では、主軸線に対してほぼ左右対称といえる。古墳の形態から昭和60年に発掘調査を行った第65号墳と隣接する第61号前方後円墳と同形態といえる。特に前方部の造りにおいて古墳の立地する地形が、南北で南側が低い場所であることから、低いぶんだけ墳籠が伸びるものである。また、雨水を一定の場所に流れるよう排水の便も計画されたように思われる周濠の造り等から、第61号前方後円墳と類似している。

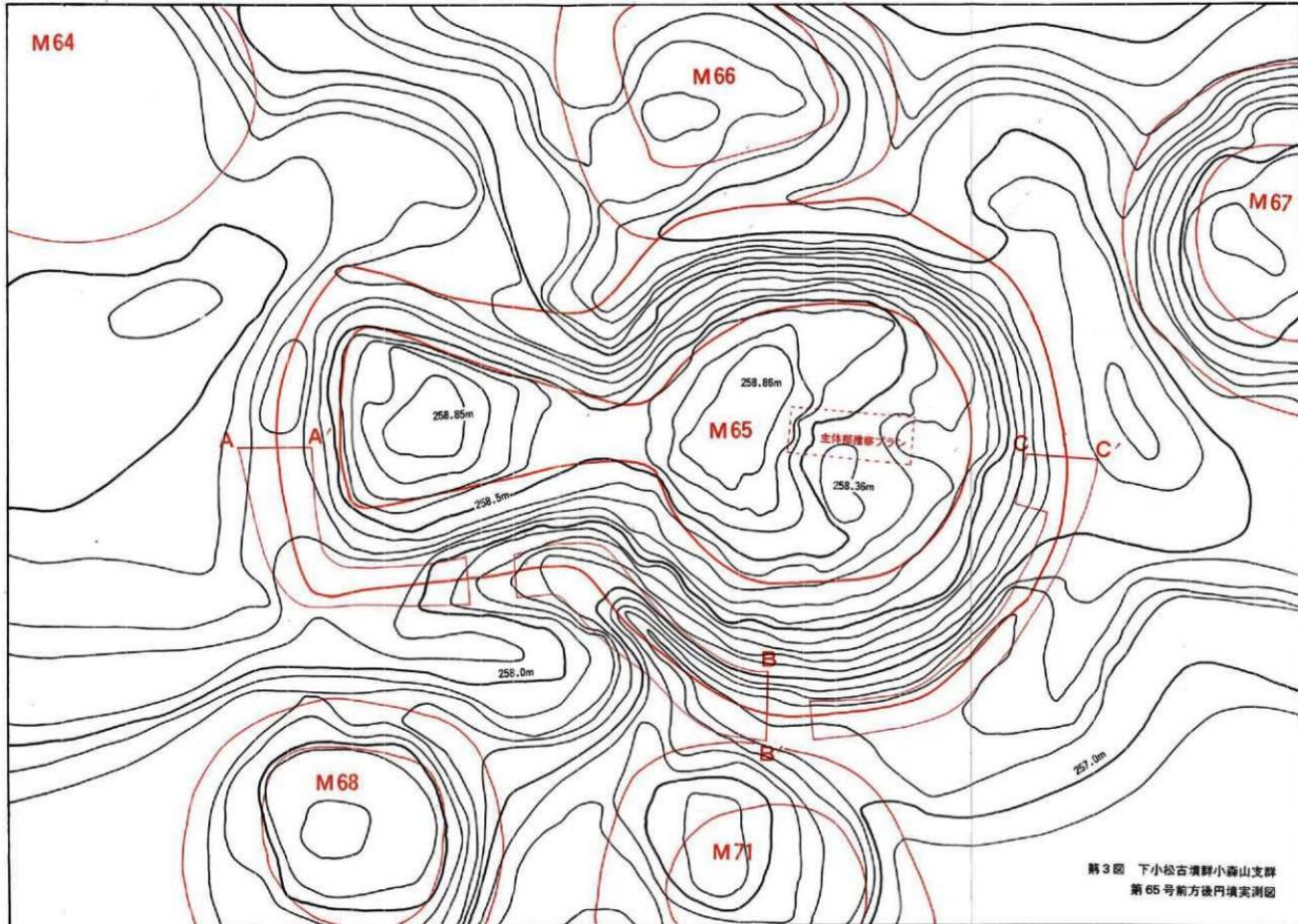
### 2. 築造年代

第65号墳の築造年代は、主体部の調査をしていないことから副葬品・主体部の形態等から年代を推察することができない。築造年代を推定できるのは、周濠より出土した遺物から年代を考察することと、隣接している築造形態の類似する第61号前方後円墳の年代とはほぼ平行するものと考える。出土した遺物については、5世紀中葉より6世紀初頭の谷柏式と推察することができる。第61号墳は副葬品より6世紀初頭と推察していることから、第65号前方後円墳の築造も同時期としておきたい。今後、主体部等の調査により正確な年代を押えることができよう。

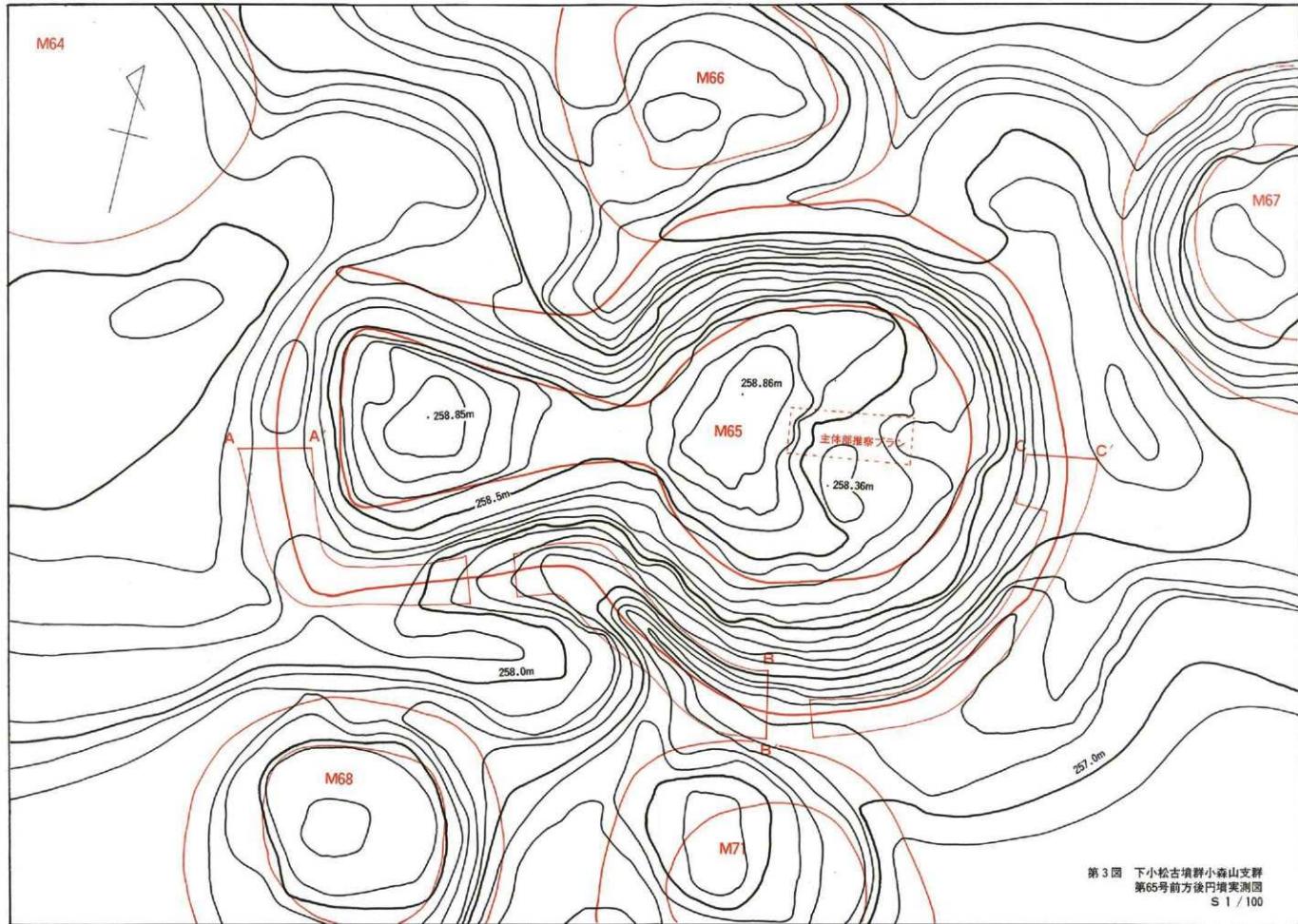
### 3. 墳丘の復元整備

墳丘の凹凸は、周濠に堆積した土を用い復元し、盛土の流出を防ぐためコウライシバとノシバを墳丘面に張り付け整備した。墳丘には赤松が覆い茂っていることから2種類のシバのいずれが適しているのか、シバの活着などにより、今後の古墳整備に活かして行きたいものである。

墳丘の盛土に関して、第65号前方後円墳の全周濠覆土の南側半分の土量を盛土したが、調査前の墳丘の最高レベルより高く盛土は行っていない。築造当時は、もう少し墳丘が高かったものと推察している。盛土の土量は約15.6m<sup>3</sup>である。



第3図 下小松古墳群小森山支群  
第65号前方後円墳実測図



第3図 下松古墳群小森山支群  
第65号前方後円墳実測図  
S 1 / 100



後円部周濠プラン確認状況  
(南西より)



前方部コーナー  
周濠プラン確認状況  
(西北より)



後円部周濠内遺物出土状況  
(南より)



周添AA'区土层断面



周添BB'区土层断面



周添CC'区土层断面



緑と愛と丘のあるまち

---

下小松古墳群

平成元年3月25日 印刷

平成元年3月30日 発行

発行 川西町教育委員会社会教育課  
印刷 株式会社 よねざわ印刷

---